９　　七月七日　　　　　　　　　　　　　　　　　　文法　終止形接続の助動詞➁

読解　言動の意図をつかむ

世の中にといふ㋐ふみを、物語に書きてある所あんなりと聞くに、いみじくゆかしけれど、①え言ひ寄らぬに、②さるべきたよりを尋ねて、七月七日㋑いひやる。

　Ａ　ちぎりけむ昔の今日のゆかしさにあまの川波うち出でつるかな

返し、

　Ｂ　たちいづる天の川辺のゆかしさにつねはゆゆしきこともわすれぬ

* 語注

長恨歌＝唐のによる長編叙事詩。深く愛したの霊魂を皇帝が探し求めるといった内容で、七夕に永遠の愛を誓う場面がある。

たちいづる＝星と星が出てきて会う。

【原文】

世の中に長恨歌といふふみを、物語に書きてある所あんなりと聞くに、いみじくゆかしけれど、え言ひ寄らぬに、さるべきたよりを尋ねて、七月七日いひやる。

　　ちぎりけむ昔の今日のゆかしさにあまの川波うち出でつるかな

返し、

　　たちいづる天の川辺のゆかしさにつねはゆゆしきこともわすれぬ

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

〔　　　　　　〕を基にした〔　　　　　　〕を読みたい作者は、〔　　　　　　　　〕に〔　　　　　　〕を詠みこんだ歌を贈り、貸してほしい気持ちを伝えると、その返歌があった。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（㋑は終止形でよい）。〈４点×２〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部を文法的に説明せよ。〈５点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問四　チェック問題［終止形接続の助動詞②］

次の傍線部を現代語訳せよ。〈１点×４〉

１　霜の上に朝日さすめり。　　　　　　　　　（和泉式部日記）

２　を、やはら、かい放つ音すなり。　　　（堤中納言物語）

３　は、むげにいやしくこそ成りゆくめれ。（徒然草）

４　世の中の人も便なげに言ふなり。　　　　 （和泉式部日記）

１〔　　　　　　　　　　　　　〕　２〔　　　　　　　　　　　　　〕

３〔　　　　　　　　　　　　　〕　４〔　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部①を現代語訳せよ。〈５点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部②を、「さるべき」の内容を明らかにして三十字以内で現代語訳せよ。〈８点〉

〔

〕

問七　和歌Ａの上の句の解釈として最も適当なものを選べ。〈８点〉

ア　牽牛と織女が願いどおりに会う七夕の今夜こそは、長恨歌の物語を読むというかねてからの私の願いをえてほしいので。

イ　玄宗皇帝が楊貴妃にしたようにかつて深い愛情を注いでくれたあなたと、二人にゆかりある七夕の今日会いたいので。

ウ　牽牛と織女のようにあなたと離れ離れになってしまった今、愛し合ったかつての日々がなつかしく思い出されるので。

エ　玄宗皇帝と楊貴妃のことを描いた物語の、二人が愛を誓い合ったとかいう七月七日の場面が読みたいので。

〔　　　〕

問八　和歌Ｂの歌意として最も適当なものを選べ。〈12点〉

ア　玄宗皇帝と楊貴妃が来世でも変わらぬ愛を誓う物語だからこそ、あなたへの愛情を忘れてしまった今、本を貸してはあげられない。

イ　玄宗皇帝は失脚し楊貴妃は亡くなるといった不吉な内容の物語なので、普段は貸さないが、七夕の今日は特別に貸してあげよう。

ウ　玄宗皇帝が楊貴妃の霊魂を探し求めて異界まで行ったように、私はあなたに会うためならどのような場所へも出かけて行こう。

エ　玄宗皇帝と楊貴妃、牽牛と織女という離れ離れになってしまう恋人たちにゆかりのある今日は、物語を読むにも不吉な日のようだ。

〔　　　〕

【解答】

問一　長恨歌／物語／七月七日／あまの川

問二　㋐＝漢詩　㋑＝歌を詠んで贈る〈４点×２〉

問三　ラ行変格活用の動詞「あり」の連体形の撥音便と、伝聞の助動詞「なり」の終止形〈５点〉

問四　１＝朝日がさすように見える（朝日がさすようだ）。

　　　２＝音がするように聞こえる（音がするようだ）。

　　　３＝なっていくようだ。

　　　４＝言うということだ。〈１点×４〉

問五　頼み込むことができない〈５点〉

問六　長恨歌を物語に書き直したものを借りるのに適当なつてを探して（29字）〈８点〉

問七　エ〈８点〉

問八　イ〈12点〉

【現代語訳】

世間に長恨歌という漢詩を、（和文で）物語に書いて所蔵している人があるそうだと聞くので、たいそう読みたいが、（持ち主に貸してほしいと）頼み込むことができないけれども、適当なつてを探して、（長恨歌にゆかりのある）七月七日に（物語を持っている人に）歌を詠んで贈る。

（玄宗皇帝と楊貴妃が）愛を誓ったとかいう昔（の物語）の今日（のことを描いた場面）を読みたい気持ち（が募ったこと）によって、（今夜牽牛星が渡っていく）天の川の波が打ち出すように、（私の願いを）言い出したことですよ。（物語を貸してください。）

返しの歌、

（七夕の今日は、牽牛星と織女星が）出てきて会う天の川のほとりを見たい気持ちに、いつもは不吉な（物語だから人に貸さない）ことも忘れてしまった（長恨歌を貸してあげよう）。

【補充問題】（＊行数は本書に対応）

問１　「七月七日」（２行目）について、

(１)「七月」の月の異名を、現代仮名遣いの平仮名で答えよ。

(２)「七月七日」を反映させた言葉を、和歌Ａの中から抜き出して答えよ。

問２　和歌Ａに用いられている修辞法を答えよ。

【補充問題解答】

問１

(１) ふみづき（ふづき）

(２) あまの川波（「あまの川」も可）

問２　序詞